

「公共交通利用促進方策講演会」開催

全国でも有数の交通渋滞地域である那覇都市圏において、マイカーに頼りすぎず市民のニーズにあったモビリティ（移動手段）を構築するためにはどのような

方策が必要なのでしょう？

全国での公共交通に関する先進事例などを基に「市民のためのモビリティとは？」と題し、「沖縄本島公共交通利用促進方策等

検討調査」の一環と

して、平成十七年一月二十四日（月）に自治会館において「公共交通利用促進方策講演会」を開催しました。

基調講演として、

名古屋産業大学の伊豆原浩二教授による「都市づくりへのバス交通の活用」国内外の事例から」が行われ、バスの特性を発揮するための策として、バスレーンなどの走行環境の改善、バス停環境の改善などにおける国内外の事例の紹介、今後のバスサービスにおける課題の提案がありました。

バス再生の取組 事例紹介



ICカードのデモンストレーション

また、□「浜松市オムニバスタウン計画」八力年の取り組みと将来のバス交通（浜松市都市計画部交通政策課 玉木利幸 課長補佐）、□「市民共同方式で走る全国初の地域バス」（醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会 吉村睦子副会長）、□「利用者の視点に立ったバスサービス改善施策」（東急バス株式会社 高橋和夫運輸部長）、□「ワイヤーロープけん引方式によ

る新たな都市交通システムの提案」（日本ケール株式会社本社営業部営業課 片田慎二課長）の先進事例等に基づく、講演を頂き、バス再生の取り組み等が紹介されました。併せて、会場入口において、ICカード対応のバス運賃箱のデモンストレーションも行われました。

なお、当日は、予想を超える約百八十名の参加者があり、関係者をはじめとする県民のバス等公共交通機関への関心の高さを窺うことができました。

